

各球団の総合満足度スコア

1. 各球団の総合満足度スコア平均値と平均値に基づくランキング
2022年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	ソフトバンク	75.03	15.68
2位	ヤクルト	73.91	16.71
3位	オリックス	73.35	17.12
4位	ロッテ	72.42	16.56
5位	横浜DeNA	70.76	16.60
6位	楽天	70.00	15.83
7位	阪神	66.80	17.57
8位	西武	65.57	17.62
9位	広島	65.07	17.48
10位	巨人	64.54	17.70
11位	日本ハム	61.70	18.92
12位	中日	55.18	19.15

2021年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	ソフトバンク	74.89	19.10
2位	広島	72.81	17.62
3位	西武	71.50	18.41
4位	横浜DeNA	71.23	16.37
5位	楽天	70.14	17.44
6位	ロッテ	68.63	15.87
7位	巨人	68.45	16.15
8位	日本ハム	65.32	17.49
9位	阪神	64.27	18.29
10位	ヤクルト	62.85	18.31
11位	中日	59.59	17.75
12位	オリックス	59.28	18.37

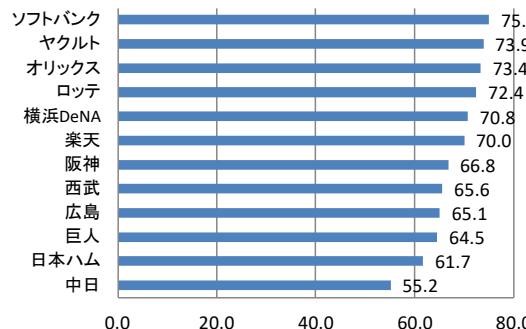
2020年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	ソフトバンク	73.98	13.39
2位	広島	71.98	13.77
3位	西武	71.38	15.85
4位	横浜DeNA	68.93	14.65
5位	巨人	66.19	16.40
6位	楽天	66.04	16.53
7位	日本ハム	64.99	14.98
8位	ロッテ	62.55	13.31
9位	ヤクルト	61.20	13.09
10位	阪神	60.73	15.17
11位	オリックス	54.17	17.00
12位	中日	49.97	17.63

2019年1月下旬調査

順位	球団	総合満足度スコア平均値	標準偏差
1位	広島	74.89	14.67
2位	ソフトバンク	74.05	15.02
3位	西武	70.95	16.17
4位	日本ハム	66.41	16.85
5位	横浜DeNA	65.85	13.73
6位	ヤクルト	65.31	15.79
7位	楽天	61.78	15.73
8位	ロッテ	61.65	15.32
9位	巨人	56.57	18.09
10位	阪神	56.29	17.57
11位	オリックス	53.45	18.98
12位	中日	48.36	16.92

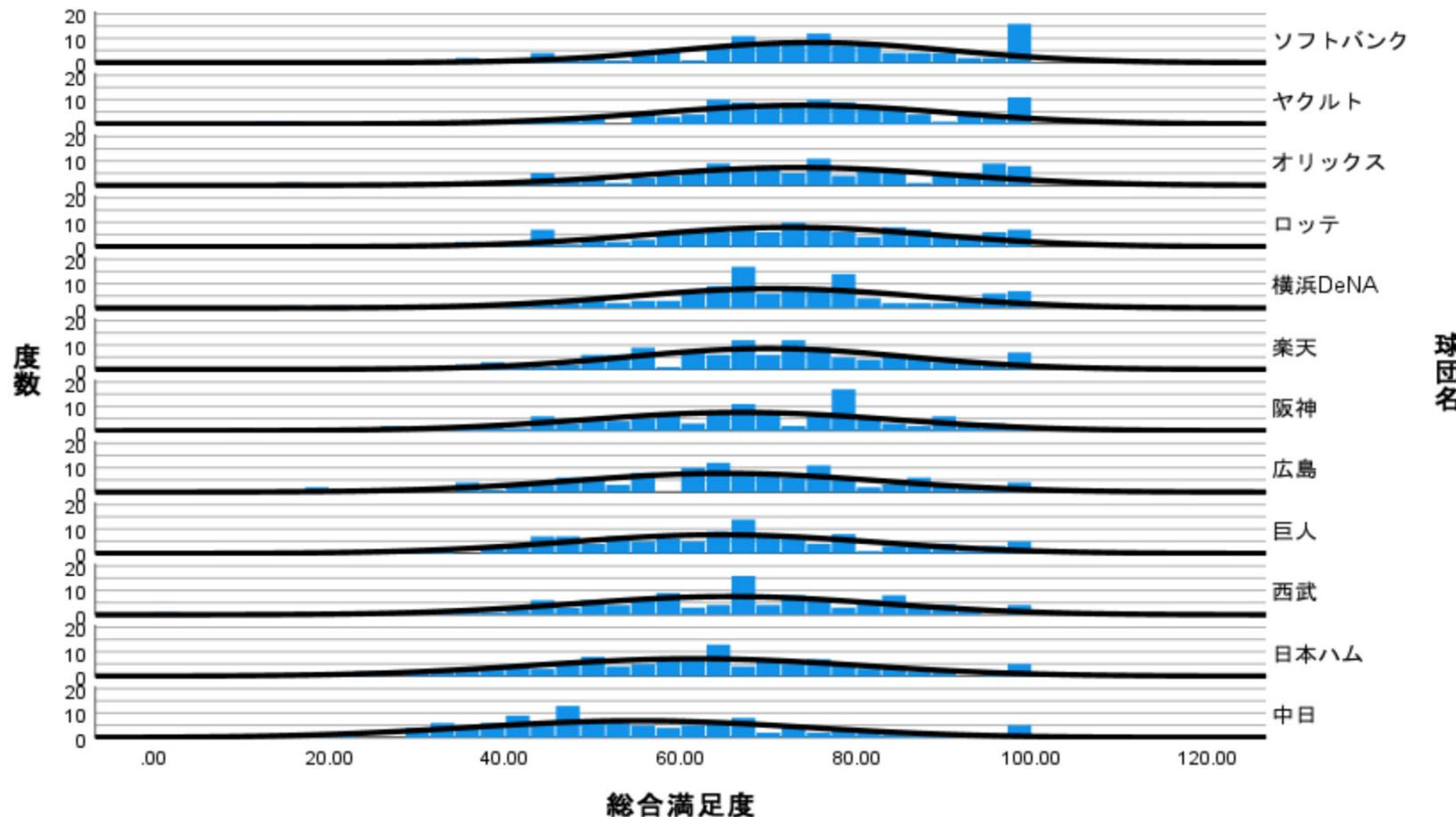
2022年1月下旬調査における各球団の総合満足度スコア平均値のグラフ



2つの球団のスコア平均値の差の検定: 5.0%最小有意差(l.s.d)の目安
 $I.s.d = 1.96 * \sqrt{2 * 15.0^2 / 120} = 3.80$
 ただし、スコアが正規分布に従い、各球団からのサンプリングが独立で、それぞれのサンプル数はn=120、標準偏差は $\sigma=15.0$ とした場合の値である。

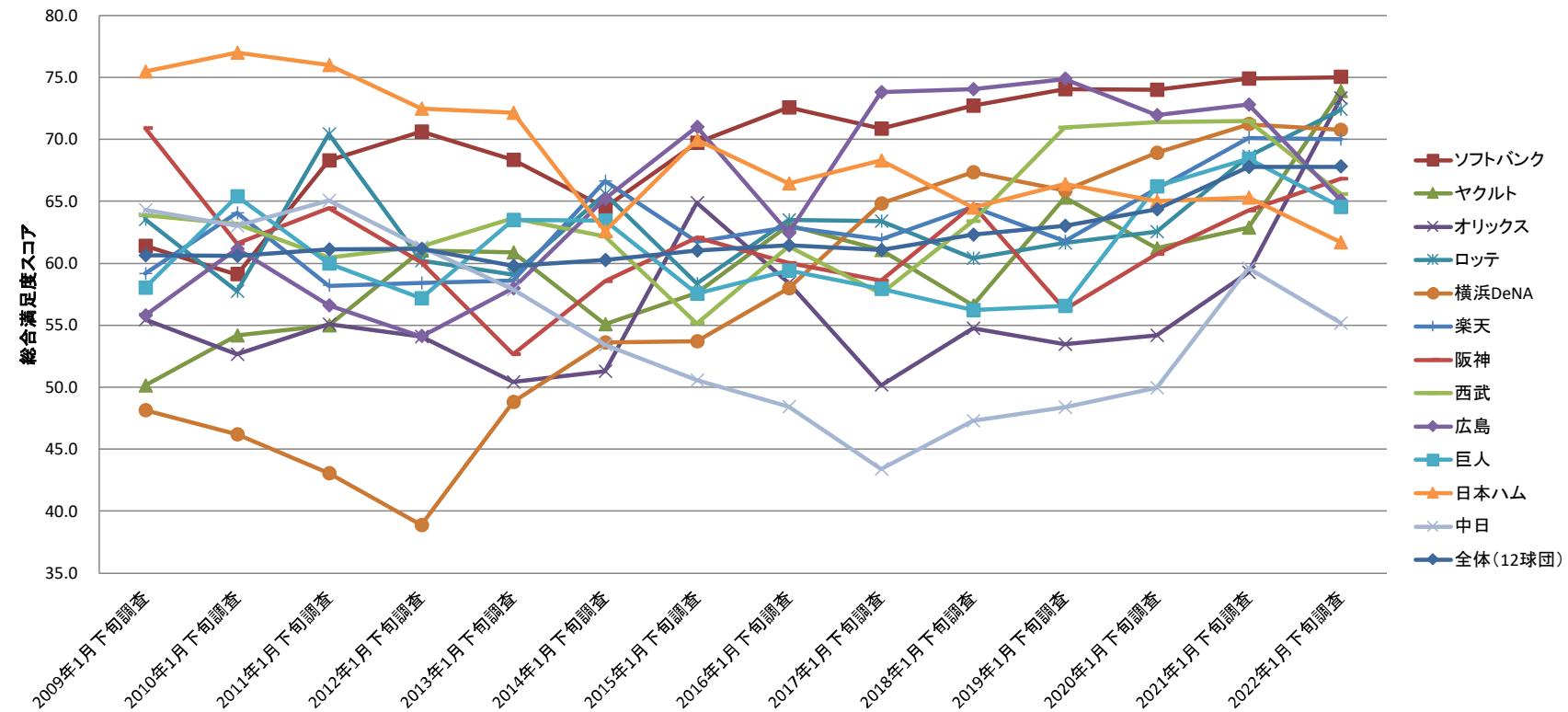
- 総合満足度スコアは、共分散構造分析モデルから求まる「総合満足度の潜在変数スコア」を標準化したものである。
- 具体的には、「総合的な満足度」と「総合的に見た場合の理想への近さ」の2項目の評価に重きを置き、さらに「チーム成績」「チーム選手」「球場」「ファンサービス・地域貢献」「ユニホーム・ロゴ」等の項目の総合満足度への影響度を考慮しながら、各項目の評価の加重平均として算出している。
- これらの項目のウェイト(因子スコア・ウェイト)は、共分散構造分析モデルにもとづき求めている。

2. 各球団の総合満足度スコアの分布（2022年1月下旬調査）



- 各球団の総合満足度スコアの分布は、おおむね対称な正規分布に近い形状をしている。
- 一方、今回の調査では、全般的に、高評価の回答者の割合が増えている。コロナ禍での特別のシーズンであったことの影響が示唆される。
- 各球団の評価については、ソフトバンク、ヤクルト、オリックス、ロッテの順で高評価である。

3. 各球団の総合満足度スコア平均値の経年変化



■**ソフトバンク**: 2022年1月下旬調査では総合満足度1位(75.0)となった。2021年シーズンでは、チーム成績はリーグ4位となり、ソフトバンクとしては不本意な結果となった。一方、地元出身者や潜在能力の高い選手を獲得し育成する方針を評価する声が目立つ。また、球場でのファンサービス、地域貢献活動の取り組みも良いとされ、継続して、チーム・選手の魅力、ファンサービス・地域貢献などが高い評価を得ており、総合力で高水準を維持している。

■**ヤクルト**: 2022年1月下旬調査では総合満足度2位(73.9)となった。2021年シーズンでは、前年の最下位からセ・リーグでの優勝、さらに日本一となり、総合満足度が急上昇した。奥川恭伸選手、村上宗隆選手などの若手が育っていること、青木宣親選手、川端慎吾選手のベテランが健在ぶりであることが「チーム・選手の魅力」の高評価につながっている。選手や首脳陣の雰囲気が良く、ファンのマナーも良いとの意見もある。今後は、コンスタントに勝つこと、ファンサービスの評価の向上が課題といえる。

■**オリックス**: 2022年1月下旬調査では総合満足度3位(73.4)となった。2021年シーズンでは、前年の最下位からパ・リーグでの優勝、日本シリーズにも進出し、総合満足度が急上昇した。山本由伸選手、宮城大弥選手らの若手の活躍、中嶋監督になってからのチームの雰囲気の良さを評価するコメントが目立った。また、ファンサービス、選手とファンの距離感の近さを評価するコメントも見られた。優勝したことで、オリックスのチームアイデンティティが形成されつつある。

■**ロッテ**: 2022年1月下旬調査では4位(72.4)となった。ロッテについても、佐々木朗希選手、藤原恭大選手らの若手の成長を評価するコメントが目立った。一方、チーム成績は良いが、優勝を期待する声も多い。地域貢献やファンサービスについては高評価である。ファンサービスを重視している球団の姿勢がファンに響いている。